

平泉藤原氏の時代、当地域は、その一門である樋爪氏の支配下にあった。樋爪の苗字は居住地の地名に拠ったもので、「比爪」あるいは「肥爪」・「火爪」とも書き、いずれも後世の「日詰」と同訓である。樋爪館を本拠とし、志波郡の西部を領して権威があったようである。

—「紫波町史(第1巻)」1972 紫波町発行—

《《《 6～7月行事予定のお知らせ 》》》

<p>6月 3日 (日曜日)</p>	<p>第8回定期講演会</p>	<p>受付:午後1時から 開始:午後1時30分 会場:赤石小学校 参加料500円(資料代込み) 講師:羽柴直人先生(岩手県立博物館主任専門学芸員) 演題:「樋爪氏と平泉の関係(二)」 共催 赤石公民館 後援 紫波町教育委員会・紫波郷土史同好会 紫波町平泉関連史跡連携協議会 ☞ 裏面もご覧ください。</p>
<p>7月 8日 (日曜日)</p> <p>※ 7月1日の当初予定が変更になりましたので、ご注意ください。</p>	<p>第2回樋爪館遺跡めぐり —五郎沼周回路完成記念—</p>	<p>午前8時30分 JR日詰駅(賢治歌碑前)集合 ～樋爪館周辺説明板～遺跡出土箇所説明板～大莊嚴寺跡 擬定地～五郎沼薬師神社～阿弥陀堂～箱清水石卒都婆群 ～古代蓮の池～五郎沼説明板～山吹川～五郎沼南端～蛇 の塚(経塚)跡～嶋の堂観音～夜泣き石～清水端・古碑～樋 爪館大溝跡～樋爪館跡標示板～ 赤石小学校・日詰駅 午前11時30分散会予定(全行程約2km) 参加料300円(資料代込み) 雨具・飲み物等持参</p>
<p>7月 18日 (水曜日)</p>	<p>第32回月例懇話会</p>	<p>午後7時から午後9時まで 発表者・発表内容 未定 ※ 毎月(6・12月を除く)第3水曜日に開催しています。</p>

—?—?—?—?—?— 樋爪氏 / 樋爪館 —?—?—?—?—?—

Part 1

IV-1 平泉の分家 樋爪氏の起こり

平泉の初代藤原清衡は、後三年の合戦の結果、清原氏の奥六郡を引き継ぎ、平泉の栄華の礎を築きます。藤原氏は奥州の海や川の経済的要衝を押さえ、奥州各地から産出された金などをもとに、政治的支配と浄土世界を目指す力としました。その藤原氏による地方統治の拠点、紫波町にあった樋爪館です。

「ひづめのたち」というのが当時の言われ方と思われませんが、紫波地方ではこれまで「ひづめだて」と読み慣わしてきました。樋爪は、比爪、火爪とも書かれたりします。

「吾妻鏡」には、源頼朝の奥州攻めに関して樋爪氏との関わりがいくつか登場します。ま

た南北朝時代に書かれた「尊卑文脈(そんぴぶんみやく)」には、樋爪氏の祖は、「清衡の4男の清綱(3男・5男説あり)」であると記されています。清綱は、祖父に当たる経清と同じ宮城県亶理郡を拠点とし、亶理権十郎を名乗っていました。その長男の俊衡が志波郡を治めることになり、姓を樋爪氏に変えたと言われています。

IV-2 樋爪氏一族と紫波

樋爪俊衡が支配していた12世紀の志波郡の範囲は、紫波町、矢巾町盛岡市都南地区だけではなく、厨川館にもかかっていたとみられており、盛岡市内の大半が志波郡で樋爪氏の支配下にあったと思われます。(つづく)

◇ 奥六郡の実質的な統括は樋爪氏が行っていた可能性をも想定すべき…か？

第8回定期講演会講師の羽柴直人先生は、平成22年1月に開催した講演会で「奥六郡の中心に樋爪館がある。秋田や青森で出土した、てづくねかわらけをみると樋爪のものが平泉のものより似ている。これだけで語るわけにはいかないが樋爪氏の支配域が拡大しているかもしれない。」と、樋爪氏が北東北の広大なエリアを支配していた可能性があることを示唆されました。

あれから2年余、地域に住む私たちが待ち望んでいた、更に調査研究を重ねた成果を合わせたお話を聞くことができると思います。

羽柴先生は県埋蔵文化財センターで県内各地の遺跡の発掘調査を担当され、昨年度から県立博物館に勤務しておられます。

今年2月の博物館主催の会のサロンでは、「平泉はいうまでもなく平泉勢力圏の中核の拠点だが、この地域の南端に位置して奥六郡の中央部には比爪(樋爪)氏がいる。このように、奥六郡には平泉と比爪の二つの拠点が示される。

—(中略)—

このように様々な視点から比較して比爪は平泉に遜色のない規模、格式を有していることが示される。」と話し、かわらけの形態からも「比爪が北方に強い影響を及ぼしていた可能性が示され、比爪の権力が、奥六郡に限定されず、平泉勢力圏の北半部に広く及んでいたことも考えられる。」と語っています。

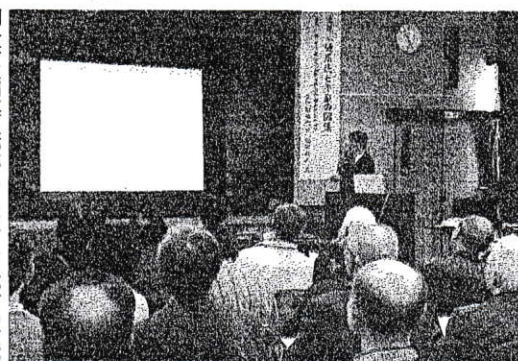
樋爪館は柳之御所級

県埋蔵文化財センター 羽柴直人さん講演 「そんな色ない出土物」

県埋蔵文化財センター文化財専門員の羽柴直人さんを招いて、樋爪氏と平泉の関係をテーマにした講演会(主催・赤石地区ひづめ館懇話会、赤石公民館、紫波郷土史同好会、紫波町平泉開運史跡連携協議会)が1月31日、紫波町の赤石公民館で開かれた。羽柴さんは樋爪館と平泉の柳之御所を比較し「平泉にあるものは樋爪にもある。両者を比較すると樋爪は平泉とほとんどそんな色がない」と話し、樋爪氏の支配領域が北東北に広がり、平泉と同等の力を持っていた可能性を示した。約100人が耳を傾けた。

樋爪館は12世紀前葉に奥州藤原氏の一族の樋爪氏が建てた館。場所は町立赤石小学校敷地。城の南には五郎沼があり、関連遺跡として薬師堂(現薬師神社)、大荘厳寺(江戸初期に盛岡城下に移設、明治初期に廃寺)、鳥の堂観音(江戸時代に北上川に落ちるまでの東

五郎沼の中島から東側に移設)、経塚(1934年に五郎沼周辺で発見)がある。これまでは赤石小学校から五郎沼にかけて樋爪館の範囲と考えられていたが、埋蔵文化財センターの調査で、国道4号を越えて側面に開運史跡があることが明らかになった。羽柴さんは「今年度発掘した小路口遺跡の調査で樋爪館の範囲は1平方メートルあり、これらには平泉の都市の広がりとおおむね同じ」と説明した。



赤石公民館で開かれた樋爪氏についての講演会で講演する羽柴さん

樋爪館関連の遺跡からは「てづくねかわらけ」と呼ばれる土器が出土している。ここに評価の差が生じた」と分析してみた。

器の渾美・常滑、珠洲、水沼が見つかっている。平泉出土とすべて同じ産地。平泉で出土した遺物はすべて見つかると見られる。寺院の配置、居館に付属する池、経筒を有する経塚など一致するところが多いという。羽柴さんは「樋爪氏は独自の基盤を有する地域権力。奥六郡の実質的な統括は樋爪氏が行っていた可能性をも想定すべき。平泉が現在まで文化を継承できたのは中尊寺、毛越寺の両寺院の存続が大きき要因。この両寺院が核となり器物、芸能、思想が地域に根付いて継承されていた。樋爪は核となる寺院が盛岡に移され、廃寺になった。ここに評価の差が生じた」と分析してみた。



えさし藤原の郵政庁

赤石地区ひづめ館懇話会ボランティアガイド 樋爪館跡の道案内人

日詰駅前観光案内所さくらばを発着
ご相談に応じます。ご近所お友達誘い
合っ、事前にお問い合わせください。
090-3125-3776(高橋)

赤石地区ひづめ館懇話会 会員募集

会費 年額 1,000円
主旨に賛同する方は、どなたでも歓迎
申込は、赤石公民館内の事務局まで。
019-676-3999